

木オだよソ

社会福祉法人 東香会
しぜんの国保育園 small village

Mar. 2024



法人理念
いきいき

- 子どもの成長・発達・生活に寄与する人はすべて保育者
- 永続的な暮らしを目指し、物質と事象と生命との関係性を深める
- 地域で安心して子育てができるように

3月主題 ふくらむ心に 夢の花

「しぜん谷の村まつり」にご参加の皆さん、気にかけてくださった皆さん、ありがとうございました。ご家庭のアンケート、職員の振り返りを含めて、またみなさんに改めて共有しますね。

そんな「しぜん谷の村まつり」のアナザーストーリーを少しお話しさせて頂けたらと思います。実は最後に演舞した「龍太鼓」の龍の顔、2、30年ほど前に保護者の有志の方が作って下さったもので、今の龍は2代目。今回、この龍をさらにパワーアップさせようということになり、越丸さんを中心に胴体を9メートル伸ばすことにしました。

しぜんの国と築田寺は里山で繋がっており、裏には「龍王ヶ池」と呼ばれる伝説のある池があります。実は数年前にみんなで一緒に舞う「龍太鼓」が本当に必要なのかという話が、園内で話し合われたこともありました。けれども「やらせるではなく、思わずやりたくなってしまおう」舞を、どうやって作っていくかという方向で話し合い、「やっぱりやろう!」と継続してきたものでもあります。

そして、伝統を継承しつつも新しく長くなった龍と共に当日子どもも大人も混ざり合い、舞うことができました。そして、帰り道。創立者の一人であり、今は築田寺の精進食堂「ときとそら」で女将をしている、美智子先生から連絡が入りました。

「龍太鼓の龍を作った保護者の方々が食堂に来てくれました。てっきり、子ども達の龍太鼓を見てから、お寺に来てくれたのかと思い『龍が9メートル大きくなったようですね』と尋ねたら、全くその事を知らず。なんと、偶然「ときとそら」を予約して来てくれたようです。鳥肌が立つくらい驚きました。龍が作者を呼んだんですね! 築田寺は、時折不思議なことがおきますね。保護者の方々も、龍太鼓の歌を歌っていました。」

時を越えて、保護者の皆さんと改めて繋がっているような感覚になりました。私自身も、保育園に身をおいたばかりの頃に一緒に過ごさせてもらった園児がお父さんになって戻ってきてくれたり、卒園児が保育者としていてくれたり。歴史のある保育園だからこそその責任と、場の持つおらかなさを身にまとい、今日も子どもたちと一緒にいられたらと思います。

園長 齋藤 美和

じむしょ 小窓 だより

2月、大雪の日の朝。駐車場で雪かきをしていると、「園庭のミモザが倒れています」と職員が教えてくれました。

すみれ室の窓から見てみると、確かにぽっきりと、ミモザが倒れているのが見えます。「ああ、本当に折れてる・・・」と呟いて窓の外を見ていると、つばき組の子どもたちが隣にきて、窓の外を一緒に見えています。



「あー、きがおれてるね」
「そうなんだよ。悲しいな。雪が重かったのかなあ」
と話していると、

「・・・クマがおっちゃったんじゃない？」
と、Rくんが呟きました。

え？クマ？
みんなは一瞬間をおいて、でも誰も否定をせずに

「・・・クマかあ」と言いながら折れてしまった木を見つめます。

「クマかもしれないねえ」
私もそう答えながら、クマが雪の中でどんどんとミモザの木を押している風景が浮かんできました。

するとまたRくんが、いつものRくんの、おっとりした口調で
「アライグマかもしれないよ」
と言うのです。

小さなアライグマが、クマと一緒にエイエイと小さな手で、一生懸命ミモザの木を押していたら、ドーンと倒れる。そんな光景を想像したら、倒れてしまったミモザの木が、お話の後の名残のようで、儚く美しく見えてきます。

卒園式や入園式には、桜とともに園庭を華やかに彩ってくれる、小さくて黄色い、ホワホワした素敵な花を咲かせるミモザ。桜のピンクとミモザの黄色い花が鮮やかな春の園庭は、しぜんの国のみんなが大好きな風景です。大切なミモザが雪で倒れたというニュースは、悲しみとともに園内あちこちで聞かれたのですが、私が朝つばきの子どもたちとりつくんの「クマがおっちゃったんじゃない？」という話をすると、その悲しいニュースもおとぎ話のように感じられて温かい想いが広がっていくようでした。

ともに過ごす日々。悲しいことや嬉しいことがあった時。隣から聞こえる子どもたちの声に耳を澄ませてみると、想いもよらない言葉を交わし合っていることがあります。子どもたちの不思議そうな瞳や、「なんだろう」と好奇心いっぱい瞳、視線の先のできごと、小さな呟きを、当たり前と思わず、大切に感じていきたいと思います。

後日、ミモザの木は保護者の森さんの手によって、元通りに。またしっかりと立ってささやかな花をつけています。卒園式も入園式も、ミモザの黄色い花はこれからも子どもたちを見守っていくでしょう。その時私は、ミモザを一生懸命押していたクマの姿も一緒に思い出すんだろうなと、今から楽しい気持ちになっています。

保育者
リレー
エッセイ
part 2

《わたしの好きな言葉》今月の担当はつぼみ組担任・宇野さんです。

たったひとりしかいない自分を、たった一度しかない人生を、ほんとうに生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。
— 山本有三「路傍の石」—

この言葉を聞いたのは、小学6年生。道徳の時間にいのちについての授業で担任の先生がわたし達に話してくれた言葉。自分のいのち、友だちのいのち。1つしかないかけがえないもの。だから大切にしたいというメッセージを先生とこの言葉から受けたことを今でもよく覚えています。大人になってから改めて言葉と向き合ってみると、自分はどう生きたい？わたしが誰かの為に何かできている？何か活かしている事はある？なんて考えてしまうことばかり。でも1人しかいない自分。1人しかいないからこそ、生きることを楽しんでいの方がいい。どちらかという自分よりの答えにしか考えが及びません。そんな中、出会ったのが

大丈夫、行こう、あとは楽しむだけだ — YOASOBI「群青」—

大学生の息子から勧められて読んだ漫画「ブルーピリオド」が原作となった楽曲で、主人公の進んできた道と歌詞がピッタリ。今まで自分がやってきたことを信じて進んでいいんだよ。というメッセージが伝わってきます。わたしもやってきたことを信じてもいい。やってみよう。楽しんで！自分に自信がなくなる時や少しドキドキするような日にもそんな想いが後押ししてくれます。楽しんで過ごしたら、きっと周りも楽しくなる。子どもたちと笑い合いながら楽しいことを見つけて過ごす！周りを巻き込みながらこれがわたしなりに生きていくことかな・・・と思う日々です。

かみじま のんびり
漫画劇場

「 事務所に龍がやってきた 」

文・絵 かみじまたるひ



INFO

たるおじさんの紙しばい「どうぶつさん」YouTubeにて公開！

<https://www.youtube.com/watch?v=EUfgsOWI6Y4>